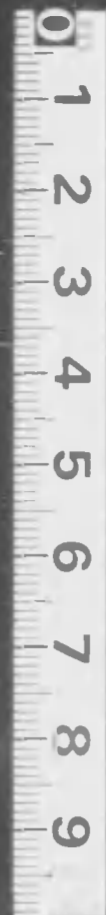


週
報
寫
眞

編輯部報情閣内
ンセ廿・號七十九第・日三月一



新
年
號



榮養劑

ニミターウ 研理

許特法製國一十界世 請受賞院士學國帝

理研の

純ヴァイタミンA・D

肝油の有効成分「ビタミンA」と「D」を、國産純良肝油から精製抽出した世界的に有名な理研製品。生臭がなく、良消化性で虚弱児にも喜ばれ、健康を増進し、養育をよくなります。肝油の酸上析の恐れ無き製法です。



いよいよ
盛りに
榮養を……

小粒製品
四〇球 二圓
一〇〇球 五圓
五〇球 一圓三〇錢
一〇〇球 二圓五〇錢

社 玉置商店



紀元二千六百年

悠遠の古、天照大神が八咫の國を肇められた御徳に答へさせられて、新たに「わが日本の國」を固めさせられた神武天皇が、大和の畝傍山の東南、橿原の地に宮居を定めさせられてこゝに二千六百年今や、われら一億國民は、東亞に新たなる秩序を打ち樹てんとする聖職下に、光輝ある紀元二千六百年を意義深く迎へたのである
(写真は御養養なつた橿原神宮)

撮影 同盟通信社

春の線前



お正月には何よりも先づお餅と門松、まつた
ぞ、糶米と松が、早速農民から買ひ込
でトラックで運ぶ。門松は杖松で辛抱しと



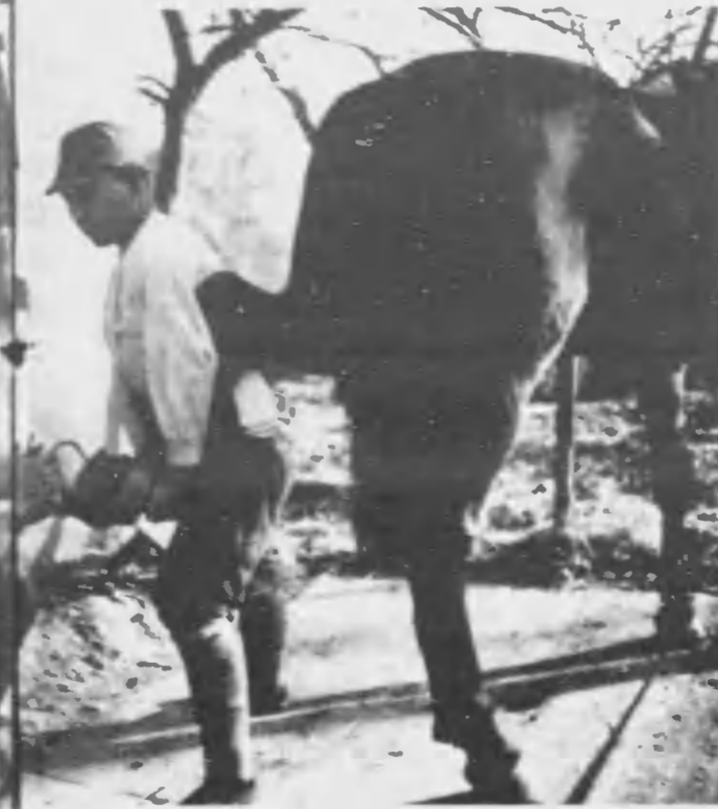
糶米をふかしてサアいよ、餅搗きだ。杵を振
上げるんではなくて、足で踏む餅搗き、こいつは
便利だ、中腰で歩いても一人で搗いてやるぞ



搗上つたのを新聞紙の上で餅取り。餅の重曹酸
は餅餅を作るんだと張り切つてもう三十分も搗で
たりさすつたり。お餅の用意はもうこれで大丈夫



「お正月が来るといふのに舞つ面じヤアな」と
福合の處で歌舞が始まる「早く刈つて呉れ、トラ
刈はいやだぞ」「トラ年はおと、今年はお
刈りとしてくれよ」



「お正月には新しい下駄、愛馬にも新しい蹄鐵
をつけて楽しいお正月を迎へさせてやらう」「ちよ
つと辛抱してをれよ。直ぐ済むからな。来年はこ
れで頑張つてくれよ」



楽しいお正月の準備はすっかり出来た。だが、
寸暇も忘れぬのは準備の重責、明日の戦への準備
だ。夜は武器の手入れに餘念がない。正月反攻、
来れば来れ



「いよ、お正
月だな」篝火を
囲んでの話題は
これだ。戦地に
迎へる三度目の
お正月。今度の
正月攻勢もあ
真さんしつかり
やつてくれんか
な。遠慮で聞
よ」

撮影
内閣情報部



「獨身者にはウヂがわく」去年の垢を手製の洗濯板にすりつける男
士の顔には何の屈託もない。洞窟湖畔で髪を洗い、揚子江の水で雑
衣を作り、支那四百餘州を轉々するとは大きからう

前線の春



「新年オメデタウ。僕七ツニナリマシタ。オチヤンノオトシニ
ツ追ヒツキマシタ」ワハハッハッ！あの坊主も七ツになつたか。
前線に迎へる三歳の春



「田作りとはどうちやいな。お饅餅の飾りにも海老の代りに
とゆからうぜ、氣前よく。東亞の正月、饅餅屋



岳州までついて来たこのシロに三匹の仔犬が生まれた。大別山の
野家に捨てられて来たこの犬が、何でなつか一年餘り、オレをし
たつて岳州まで。三匹の仔も二才になつたぞ」洞窟湖畔の春達し



午前七時、上海ではまだ夜が明けぬ頃、朝日に、本館中庭で訓練を受ける陸戦隊員

撮影 鈴木 實

上海 陸戦隊

上海北四川路の北端に駁然と聳え立つ上海陸戦隊本部。屋上高く軍艦旗は翻へり、薄風色の見るからにどつしりとした頼もしい四層楼はそのまゝ陸に浮ぶ数十萬トンの巨艦である。あの壯絶を極めた上海戦に、今事變の初期に決定的な段階を劃した上海戦に、こゝを牙城として勇戦奮闘、世界を驚嘆させる働きを示した陸戦隊員は、上海に戦火おさまつて二年有餘のいまだどんな風にして事變第三度目のお正月を迎へるであらうか。如何にして自らを敵へ、如何にして繁榮の一途を辿る新上海に支那民衆の善隣となり、その治安確保の努力をつとめてゐるだらうか。舊風、大晦日を数日後に控へた一日、陸戦隊本部を訪ねてみた

海上生活を忘れぬ點鐘の時報。三十分毎に本館一帯に鐘の音が力強くひびき渡る。この鐘は又非常を報せる警鐘ともなる

『誰か』真暗闇の八字橋に銃聲が二つ鋭く光つた。かつての戦場の跡、敵が突いたトーチカの前に不眠の警備をつとめる陸戦隊哨兵



午前の課業、通信演習。モールの備をたく書が並ぶにはいにはじかへる

軍艦生活をそのまゝに掃除のことをこゝでは『甲板掃除』といふ。水兵さんはきれいな好き



陸戦隊本部では銃器の修繕や簡単な木製品を自給自足を行つてゐる。金工場に働く隊員

夕食後、厳重な煙火管制下に夜の演習がはじまる。故障への便りをつとめるものこのひと時



上海陸戦隊

「いくつ？ 五つか、そうか坊やは五つか」何の不安もない母親の笑顔、あの昔時は「この子は三つ、私は小脇に抱いて江蘇路を逃げ廻つたものだ」と夢のやうに思ひ出す



支那のお内儀さんが熱いお茶をくんで来た。——道路修理の作業に来た陸戦隊勇士への心からの感謝である「お茶」(有がたう、有がたう)



チーチーバーと喧嘩だ、喧嘩だ。黄包車が八百屋車をひつくり返した。見物は大喜び。中に這入つた陸戦隊の水兵さんも苦笑ひでもてあまし。「先生に手間かけて済まんやないか、喧嘩はよせよ」と彌次が飛ぶ

「シッケイ」「チッケイ」饒ちやんいつの間にか日本の兵隊さんの敬禮がお上手になつた。なごやかな小春の陽ざしに、江南の梅はこの少女の心に咲いてゐる





羽子板を作る兵隊さん

十二月、日晴
 前線に迎へるお正月もあと
 づかのうちに迎へた。今日
 は大気も良いので部隊長以下
 警備隊の兵隊も出てお正月
 の準備をする。昨日輸送班か
 ら配給された門松と近所の歌
 から切つてきた竹、乾つて日
 晒しと五色紙を交差させると
 それでお正月らしい気分にな
 った。

そんなことをしてゐるうち
 に顔なじみの町の子どもたちが
 集つてきた。この間宮内の掃
 除をしてもつた御禮に何か
 してやらうと思つてゐると、
 安井上等兵は『俺が羽子板を
 作つてやらう』と板や鉛や鉋
 を持ち出して、早速製造に取り
 かゝつた。みてゐるうちに
 板をひき削り、鉋をかけて羽
 子板らしいものをこしらへ上
 げた。なるほど安井君は大工
 だつたんだ。

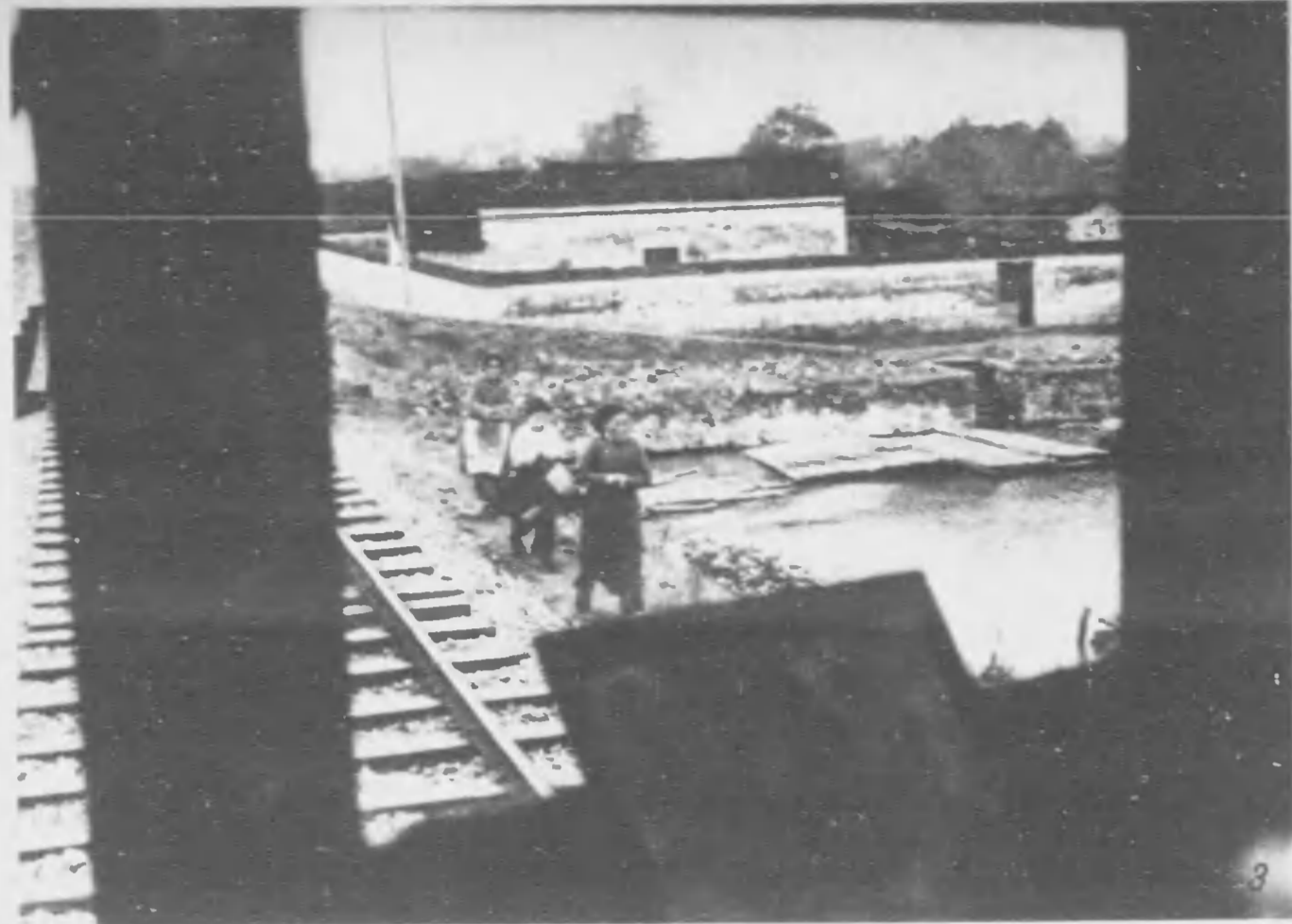
羽子板が出来ると、田村
 一等兵は、キョウキと墨汁で
 これに絵を畫いた。野口一等
 兵は、黒豆や小芋に嚙の跡をつ
 けて羽子を作つた。いづれも
 なか／＼器用なものだ。

支那の子供たちは羽子つき
 などをしたことがないので、
 自分らが作つてみせると、す
 っかり面白がつて、代る／＼
 キョウキや墨汁を奪きながら出来
 立ての羽子板を振り廻して、
 追獅子に夢中になつたが、出
 来合ひの黒豆や小芋の羽子は
 忽ちうち壊されて種切れとな
 つたので、野口一等兵は今晚
 寝ずに考へるそつだ。

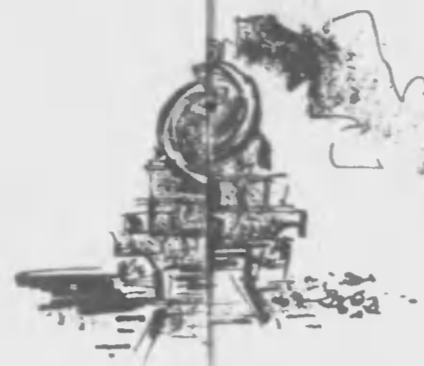


撮影 鈴木實

愛路のトパーデ 鐵路列車



撮影 鈴木 實



1 大陸建設の動脈である鐵道をまもるため、石造りのトパーカに日夜起居をつづけ人知れぬ辛苦を厭わぬが警備兵

2 車内は炭、砂糖、鹽、魚等の食糧品、藥品、マッテ、燭燭等の日用品、その他の品物でぎっしり一杯

3 販賣市場に急ぐ女たち「王さんも陳さんも早く行かうよ」

4 「愛路列車が来たぞ」愛路列車は沿線の各所々で販賣の店開きをすこす待たせられていた農民はとつと一時におしよせ大に鐵道警備の勇士や鐵道従業員はまづ子供たちにお菓子やお茶を分けてやる



中支蘇蒙線運送の愛路列車は沿線各地の鐵路愛護團員へ販賣する食糧品、藥品その他の日用品と数々の財物とを満載して蘇州群を發車した

大陸建設の動脈である鐵道を、敵寇軍隊の襲撃、爆破等から護るためには、わが軍隊の鐵道警備隊だけでは不十分であつて、どうしても沿線支那住民の力を結りなければならぬ。この意味から中支那でも昨秋（昭和十四年）沿線各地に鐵路愛護團が結成され、わが警備隊や、鐵道従業員は偏鄙な村々を歴訪して農民を集め、鐵路愛護の趣旨、東亞新秩序建設の意義を説いて愛護團への加入をすすめてきた。この甲斐があつて、いまでは沿線の農民たちも警備隊の勇士や、鐵道従業員に親しむやうになり、愛護團員の密告によつて鐵道破壊が未然に防止された例も屢々あつたか、かうした愛護團員たちの功に報い、なほ一層鐵路愛護運動を旺んにするため、その宣傳と日用品販賣とを兼ねて愛路列車が各線に運轉され、行く先々で販賣市場が開かれる

今日は愛路列車が来る、物が安く買へる、どんな御土産がもらへるだらうと、農民たちは焦待ちこがれてゐることだらう、少しも早く彼等の期待に應へてやらずと、愛路列車は平和な線路を風を切つて突走つてゆく





車列路愛トパデの 路鐵

5・6 車體の兩側は「民衆路 眞民幸福」の通稱(神速長編)とスロ1ガンを大書した愛路列車からとし、品物がやぶされる。ミア、廉賣だ。譯が速製デパートになり、ブラフトファームは陳列場

7 買ひたい物を書き入れた購買券と引かへに買ひ入れに忙がしい愛路車員

8 「ハイッ、君は、マチ五箱、鹽二升、鹽くらけ一貫目か、ホイ来た」

9 値が非常にやすいのでとつさり買ひものした誰も彼もがはく顔で、家に歸る





の新支生新 校學官士

る生團練訓官軍軍陸央中



容共政権の壓政に虐げられた全中
国民衆の待望の裡に汪精衛（汪兆銘）
氏の新生那中央政府が誕生しようとし
てある時、新生支那の國防力を擧とし
てゆるぎないものにならうと、西曆九
日、中央陸軍軍官訓練團（わが國の陸
軍士官學校に相當）は、團長汪精衛氏
を迎へて上海に盛大な開學典禮を舉行
した。

- 1 「和平反共建國」を汪
第一代團長が主筆に與へ
る言葉である
- 2 開學典禮（開校式）に
臨む汪團長（中央）
- 3 軍官訓練團創設の抱負
を語る汪團長（左）
- 4・5 新生支那の新兵隊は
われらの手で、新入生の
學格は固い



和平
反共
建國



撮影 上海プレスユニオン



「坊主、お留守たのむぞ。お父さんね、今日はちよつと遠くまで行って来なければならぬの。今晩はお母さんとおとなしく寝るんだ。お母さんのように状況は悪くないから、お父さんとしてお母さんまで行って決して坊主の命を助けておくれ。お父さんね、お留守たのむぞ。」

特別警備隊が自装束に身を固め、凍り付いた雪を踏み踏んで進む。深雪の中、足音が響く。隊員は互いに声を掛け合っている。隊員は互いに声を掛け合っている。隊員は互いに声を掛け合っている。



北鮮の春厳し



鴨綠江を中へ押込んだ北鮮と満洲との境は支那軍の侵入以来、朝鮮半島に波及する反共化の動きが起きている。好機を捉え、時折激戦に発展する反共化の動きが起きている。好機を捉え、時折激戦に発展する反共化の動きが起きている。好機を捉え、時折激戦に発展する反共化の動きが起きている。



江津警察出張所の粉雪の夜は静かに更けてゆく。警備に立つ前、今夕行商人から聞いた情報を打電して置かう。

撮影 朝鮮總督府

し 辰 春 の 鮮 北

「行っていらつしやい」妻子は後突に身をかためた夫が今日もはげしい勤務に没つてゆくのを見送る。昨夜爐端で夫が丹精こめて手入れした鉄をそつと取つて手渡せば油の香りが手に残る。



お正月、松飾りも飾はなうちから、夜の厳しい寒さと暇ひ連舞に出かけてゆく特別警備隊員。門前に見送る家族は今夜も無事で歸ります。そらにと心の中で手を



合せて主人の姿を闇の中に追つてゆく。

同じ出張所、駐在所の家族が所長さんのお宅へ集つた。床に心ばかりの松飾り、内庭から届いたばかりの雪柑の箱をよけて楽しいお正月の集ひ。ランプの灯は遠く故郷を思ひ出し、外からはしみる雪の音、水が凍りつめる音が聞こえて来る。

鴨緑江は岩壁のやちに凍つて人でも歩いて自由に通ず。大晦日の夜降り積つた雪に對岸との途は埋つてしまつた。オイヤイヤと呼びかひながら氷上踏の掘り起しに汗を流す。

大急ぎ時は家族の婦女も針を執らねばならない。モイセルの針床をひきりと物にすれば、いつか夫と共に家を守り固く護る熱情が、針の先から溢れ出る。





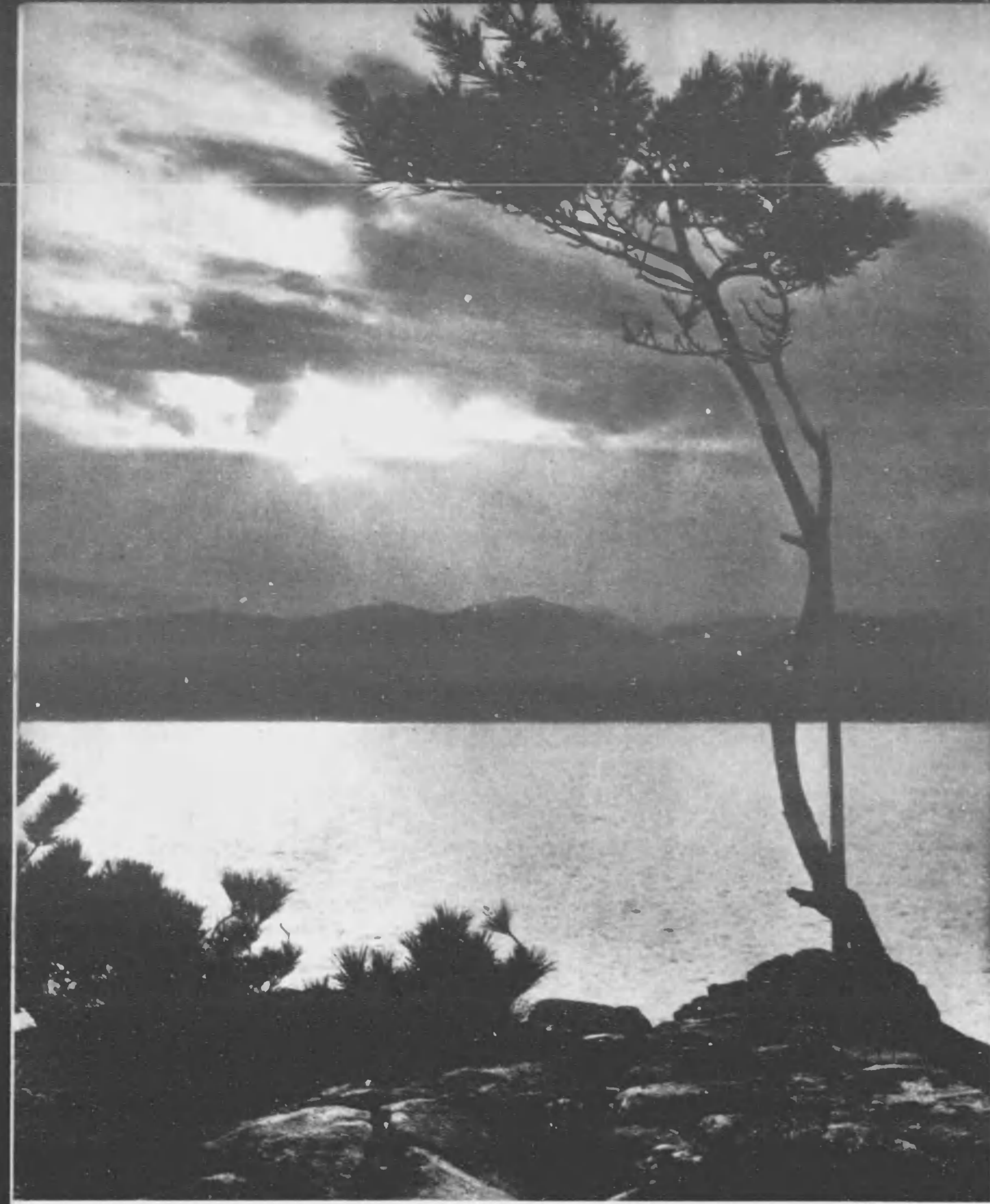
迎年祈世

大正十二年一月一日、我が大日本帝國の歴史、大正十二年の幕を開く。この日は、我が大日本帝國の歴史、大正十二年の幕を開く。この日は、我が大日本帝國の歴史、大正十二年の幕を開く。この日は、我が大日本帝國の歴史、大正十二年の幕を開く。この日は、我が大日本帝國の歴史、大正十二年の幕を開く。この日は、我が大日本帝國の歴史、大正十二年の幕を開く。



高千穂町の三田井を中心五箇
 瀬川沿岸一帯の数十軒に展開する
 壯麗、幽遠、奇絶の名勝地、高千
 穂峽は神都によさはしく豪麗な感
 感に打たれる
 峽の名勝、濤落ちる眞名井ノ瀧
 に佇む乙女は自然の神祕に我を忘
 れる(下左)

撮影 同盟通信社



日向高千穂と
 美々津の濱

高千穂宮を設けられた神武天皇
 は、九州耳川の河口、美々津から
 數十の軍船を率ゐさせられ、海路
 はるけくも東遷の程に上り給うた
 今から二千六百年前、八月朔
 日の朝まだきであつたといはれる
 なほ、こゝ美々津には記念の燈
 明臺が建立され、神武天皇御船出
 の昔勇ましく御發航あらせられた
 海上は永遠に海國日本の聖域とし
 て照らされてゐる

撮影 海軍省



支那の歳晚風景
既に私達は陣中で意気ある新年を迎へたが再び支那の正月を迎へることになった。
一年に二つ年を取った譯ではないが支那の正月は昔ながら舊年のだ。そこで支那民衆が年を送る大晦日の歳晚風景を見るために街へ出かけた。

『キショウ！』『キショウ！』と千鳥聲に目を醒して見るとまだ早朝。髪だなど思つて時計を見るとまだ起床時間に二十分も前だ。『キショウ！』『キショウ！』と又聞える。よく耳を凝まして見ると子供の聲だ。何だ太郎の奴が。又太郎にたまされた。
太郎は我々が助けてこゝろ部隊の支

太郎
太郎は功名争ひをしてゐるんぢやないんだ。俺達は俺達の部隊名が麗々しく内地の新聞紙上を飾るのを唯一の希望にしてる程、不純な兵隊ぢやないんだ。だが、しかし、と戦友達は雨にたたかれて、その儘、チク／＼の泥濘の上に尻を下ろして爪を噛むのだった。
社下の戦闘からボツ／＼戦傷患者が出はじめた。各分隊は擔架を組み立てて、右往左往ははじめた。『痛い！』『傷は大したことはないぞ。元氣を出せ。俺達が来たから、もう大丈夫だ。』



宮崎泰二郎
兵科に區別はあつても差別はありはしない、といふことはみんなが承へてゐるのであるが、酒でも呑むとつい愚痴つぽく、或は昂奮して『同じ萬歳の機ちやないか、歩兵のバリー／＼じやないか、國を出る時、お前は擔架兵かといはれて、何だか情なかつたぞ。』といひ合つた戦友達。生きちや歸らぬと國を出て来ただけに、第一線の任務につかねばならぬことがみんなの氣持を情なくしてゐた。『軍軍の一員として任務を全うせよ』と我等の部隊長は訓示されてゐる。此の言葉が戦友達の胸のモヤ／＼を駆逐してゐたのだ。四月攻勢なる敵の盲動に對して、

奇襲的に我が作戦の出動が行はれた。南支でもつとも雨の多い戦闘に困難な四月の泥濘をついて、擔架兵も戦列に連なつた。
泥濘を渡する悪道、しづ／＼長い行軍行列、そして前方にチエ／＼機銃、友軍の出陣、或は彼我小銃の交錯、文字通り音と白煙だけの戦闘を、ある雨足の彼方の山すれから、細細し／＼のやうに觀望するだけ。つまらぬぞ！とひつくりかへつて煙草を吹かした戦友達だつた。自己の任務を軽蔑するなんて、もつとの外のことである。亦淋しいことである。然し、砲聲を耳にして擔架を擔いで待機してゐる戦友達の情なさうな顔色は、どうにも隠すことが出来なかつた。

はどんなに感謝してくれたことか、いやそれ以上に傷ついた擔架上の患者も苦しい、痛いと呼びたいのを、擔架兵の努力に對する思ひやりから黙つて眼を閉ちてゐるではないか。
分つた！ 分つた！ 何もかも分つた。
闇の中で擔架兵達は神の姿を見た思ひだつた。
國につく才道にふたつはなかりけり。戰の庭に立つも立たぬ。
明治大帝の御製が胸に魅つて来た。まして召されて戰場に在る身なんだ。淺黒な血氣にはやつた思ひが恥ぢられた。
○作戦は我軍の力調よく、敵を敗退せしめた。やがて春去り、夏來り。第一線警備にいたる擔架兵は、本科と同じく、分暗に立つた。眼前の敵と對峙して武者ぶるひの感傷にひたつた。そしてある日、暁の戦闘は、擔架兵數名の命を奪ひ去つた。
擔架兵も死ねたんだぞ！
一瞬、胸の中のモヤ／＼がカラリと晴れ渡つた。
最高度に忠節を全うしたことの歡喜、喜望！
晴れた夏雲の下、白木の箱の戦友の姿を見送るすべての擔架兵の瞳には眞珠のやうな涙がうるんだま、いつまでもいつまでも消えなかつた。
此の瞬間に、我が部隊長の下に在る幸福さを痛感したことは嘗てなかつた。
○作戦は、幾多の戦闘の後に始めて救へられた『擔架兵開眼』の口火であつたのだ。 (陣中雜記『兵隊』より)



支那の歳晚風景
さすが一夜明ければ新年だといふので、街は忙しさに裡に包み切れぬ喜びを折り交せて、どこも、かしこも、賑やかだ。城門高く書かれた『實現東亞大同盟』の文字も、その上に賑がへる新政府の五色旗も、過ぎ去つた破壊の年のいふ／＼の思ひ出を今日一日に残して、明日に迫る建設の春を待ちかねるやうだ。氣の早い連中は、これが待てないともいふやうに、もはや晴着に身を装はつて街を右往左往してゐる。立並んだ店々には正月用の品も、盛り澤山に、寶子が街行く人に呼びかけてゐるのも面白い。
『年終拍賣』『犧牲的格外便宜』といつたやうな文字が目につく。
雜貨店や、お菓子屋や、食料品店はお正月の用意だらう、あれや、これや、と買込む客で大賑ひだ。
彼等が買つて歸る品物は、大抵赤い紙で包まれてゐる。この赤い紙は支那で祝ひ事に用ひられるたまたまうた。これも年末風景の一つだらう。
赤青の紙をさらけて忙かしき買物多し支那の年の瀬。
今年はずりも許されてゐるので、女子供達も楽しさうに手に持ち切れない程買込んで歸つて行く。
子供達は、もはや正月気分が遠慮に嬉々として、店頭に備へつけられたラチオからもれる支那音楽までが歳晚風景にふさはしく正月の晩報でもあるかのやうだ。
所々の壁には、はられた軍軍のボスターには、『買物新報』の文字も賑々しく演習隊の軍軍が勇ましく演習の中を通り過ぎて行く。これも歳晚風景にふさわしい車心の進軍だ。
夜は又、乞食の多い事だ。勿論晝だつてゐない譯ではないが、晝は銀行や郵便局の入口に哀れを乞ふてゐるものもあれば、豪然と構へてその前に一字並相繼位の大さきで『糧食因窮』と大書してゐるものもある。それが夜になると活動始める。中腰にボロをさけて口角泡を飛ばすもの、四つん這ひになつてお急ぎのもの、何をいつてゐるのかサツパリ解らないが、その口調から察すると、俺が、かうやつて乞食をやつてゐるのは俺が決して悪いんぢやない俺の伯父、俺の兄貴は相當の暮しをしてゐながら俺を見てくれたらいいからサア俺に銅幣をくれ、そうすりゃア御前さんたつて快樂の道が開けるといふ



一竹下水兵の海上封鎖日誌

一等水兵 菊地 恒

「信使兵！ 信使とつてくれ」大きな聲が暗の中から呼びかけた。「おいきた」信使兵の矢島一等水兵が勢よく答へて探照燈から飛び降りた。海を距てて大陸が黒々と伏して見える。左側に面した山の下で五ツ六ツ深い光を睡た気に投げかけてゐる外は大陸の何處もが闇突そのものの暗黒さだ。

「静かに左」一時光芒の歩みが停止したが再び少しづつ左に動き出した。湖水の如く静かな海面は蒼白い光芒を浴びて垣々と一筋の道を展いて行く。別な船の付くにも似た音が聞える。耳を傾けてみると地の底から響く音が湧いて来るやうである。「止め！ 突然怒鳴るやうな聲に菊地は空に旋回の手を止め、光芒がピタリと停止して向かぬ物を射止めたものの如く、光芒は止まない光に無意味な程落ちて見えた。「おいッ、成克だ！ 大陸に向つて行く。馬鹿に船尾を操りておれ」かう言ひな

た。光芒を少し右に、餘りランチを照らすな。杉山兵曹は菊地に注意して双眼鏡を眼から離した。光芒が右に滑つて成克のみが半身照らし出されてゐる。ランチと成克の距離が縮むに従つて一同は心の平穏をとり戻して行く。の如く和やかな表情に復して来た。ランチが密艦船を対岸深く追ふ事は想像以上危険な仕事である。殊に今成克の密艦しようとした機嫌には頑強なトローカ陣地を構へて敵が虎視眈々として警戒艇の近接を妨げてゐるので、その密内に成克の逃避するのを一同は懸念してゐたのであつた。

二等兵曹は話しかけた。照射らしいオイ村尾、用意だ。先刻からジツと大陸の前方を眺めながら何と深淵な表情で考へ込んでゐる連隊員は付記「一等水兵に用意を促した。」「カッ、いけい、炭素交換を忘れてゐた。杉山兵曹、炭素交換へねばなりません。今晩、これは三本目だ。少し量が多過ぎる。今度は少し時間を短くして、さういふから杉山兵曹は懐中電燈を照してさう、炭素交換の交換にかかた。

「探照燈、射たよ、今の信使は石油タンクの右側から鼓浪嶼の左端に至る海面を射するやう、探照燈の際警戒艇を照らすやう注意してつてよこしな。

任務遂行の爲には、風雨は勿論如何なる厄災をも征服し来たつただけに封鎖艇を犯す者には限りない懲罰の情を以て断乎これに對準してきた。然し任務の一つ、果し得たればは總てを超越した満足感でもあつた。

「接敵しな。杉山兵曹は菊地に注意して探照燈を動かしてゐる。探照燈が伸びた。周囲を照らすのみならず、現し、強烈な光芒が果し無く直線を射、大陸の取りを乱すやうな山つて見える。左々、杉山兵曹は双眼鏡を覗きながら菊地に叫ぶ。それに應じて光芒が左に動いて行く。島が次々に

「接敵しな。杉山兵曹は菊地に注意して探照燈を動かしてゐる。探照燈が伸びた。周囲を照らすのみならず、現し、強烈な光芒が果し無く直線を射、大陸の取りを乱すやうな山つて見える。左々、杉山兵曹は双眼鏡を覗きながら菊地に叫ぶ。それに應じて光芒が左に動いて行く。島が次々に

「接敵しな。杉山兵曹は菊地に注意して探照燈を動かしてゐる。探照燈が伸びた。周囲を照らすのみならず、現し、強烈な光芒が果し無く直線を射、大陸の取りを乱すやうな山つて見える。左々、杉山兵曹は双眼鏡を覗きながら菊地に叫ぶ。それに應じて光芒が左に動いて行く。島が次々に

ものちや。一年中の罪亡しも出来やうぢやないか」と理詰めでまくし立ててゐるらしい。

ふるとしの忘れかたみの乞食どもせはしく街を窺ひあるくかな

よく通る橋のたもと、何時には何時にもなく赤いロソクに燈明がついてゐる。菊つたをボツと赤くして鼻の穴や耳の下から垂ても下げたやうな長い鬚をはやした土隅の神が綺麗に祀られてゐる。その背面に「陽光大吉」と大書してあるところ、まさに支那でなくては見られぬ風景の一つだ。

よく通る橋のたもと、何とらにもお菓子のやうな神とロソク

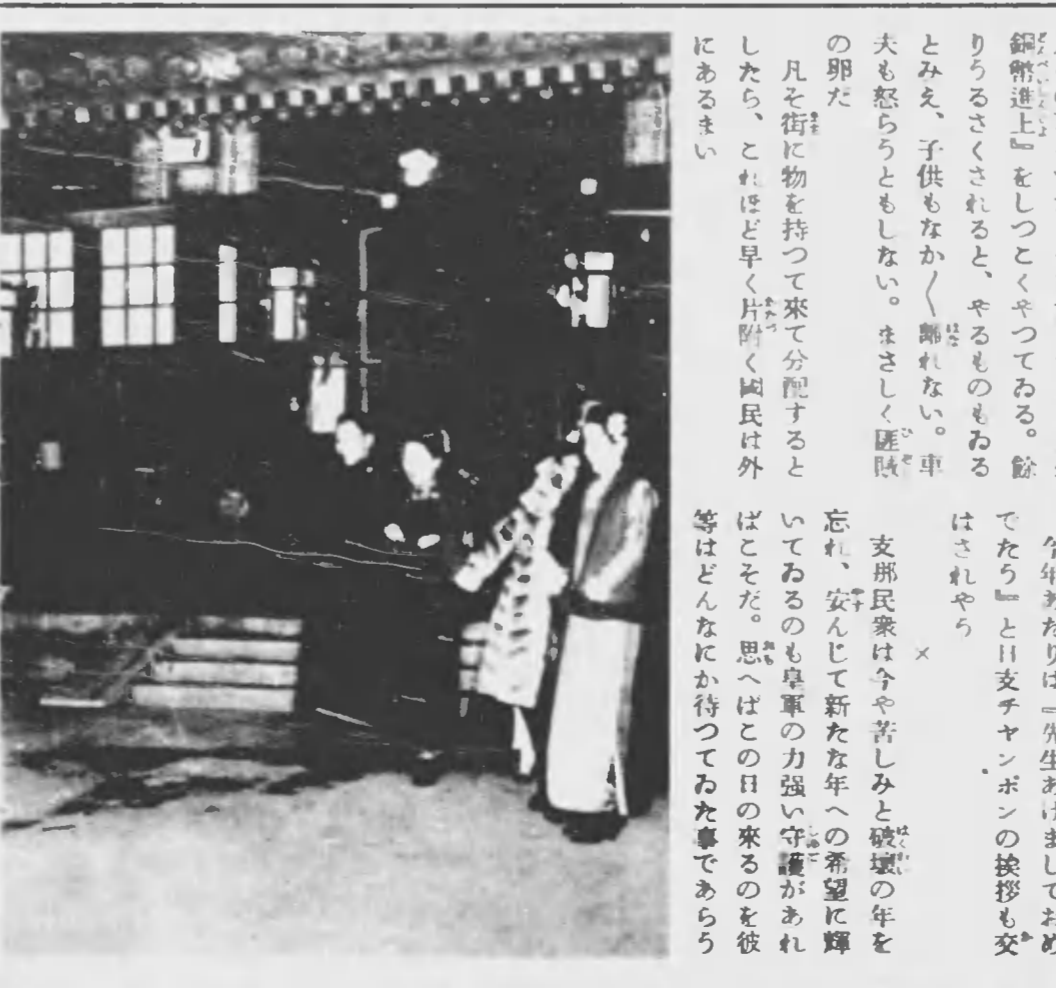
黄包車を通る人がある。子供が二人、その車をこまへて走りながら「先生、銅幣進上」をしつこくやつてゐる。餘りうるさくされると、やるものもあるとみえ、子供もなかく離れない。車夫も怒らうともしない。まさしく匪賊の卵だ。

凡そ街に物を持って来て分配するとしたら、これほど早く片附く國民は外にあるまい。

支那民衆は今や苦しみと破壊の年を忘れ、安んじて新たな年への希望に輝いてゐるのも皇軍の力強い守護があれはこそだ。思へばこの日の来るのを彼等はどんなにか待つてゐた事であらうだ。

明くれば「恭賀發財」だ。恭賀發財とは「明けましておめでとう」といふ意味だ。下町では「恭賀々々」と挨拶するのが多い。今年あたりは「先生あけましておめでとう」と日支チャンポンの挨拶も交はされやう。

支那民衆は今や苦しみと破壊の年を忘れ、安んじて新たな年への希望に輝いてゐるのも皇軍の力強い守護があれはこそだ。思へばこの日の来るのを彼等はどんなにか待つてゐた事であらうだ。



年頭雑景

爆竹が多くて困ります。銃聲と區別がつかぬわ。何とかならないものでせう。

「この年の良辰は爆竹がないと、お正月を祝つた気持になれないのだから、お正月してやるやうに上の方からいって来てゐるし、兵と中尉との会話だ。

「何んだらう、シツポかね」

「さう、シボ」といつて謙かに笑ひく「さう、シボ」といつて謙かに笑ひく「さう、シボ」といつて謙かに笑ひく

ある兵士の慰問袋への禮状

慰問袋をアア上見上りの御禮に、お製兵曹の御下まつた、マレツと、のて一同は敵地で、お正月の、に上つて慰問袋をまつて、

「お正月、御禮申し上げます。厚く、御禮申し上げます。厚く、御禮申し上げます。厚く、御禮申し上げます。厚く、御禮申し上げます。



を袋問
んさ兵水たつ

慰でカリメア
らも



- ヶ月の遠洋航海を終へ、舊曆二十日、横須賀へ帰港した
- 1 ホノルル埠頭の練習艦隊、劈手、八雲
 - 2 米國ハワイ派遣艦隊司令官アンドリュース中将はわが澤本司令官を練習艦隊上に答訪した
 - 3 自動車を送りわてハワイ見物する候補生を派遣の邦人は日米兩國旗を振つて迎へた
 - 4 練習艦隊がホノルルを出港する時、第二世たちは真心こめた慰問袋の數々を送つて水兵や士官候補生たちを喜ばせた
 - 5 ホノルル見物の士官候補生たち
 - 6・7 在留邦人の心をこめたまへしは士官候補生達を非常に喜ばせた

撮影 海軍省

わが海軍の次代を擔ふ士官候補生を乗せた八雲、劈手の練習艦隊は昨秋十月、澤本中將を司令官にハワイ、南洋群島方面の遠洋航海に出つた

同月十八日ホノルルに寄港した練習艦隊はハワイ在住邦人の絶大な歓迎を受け、その後南洋方面へ出發したが、當時の模様を第二世の手で撮影、寫眞を海軍省へ送付して來た。

事變下の在米第二世達のもてなしには赤誠があふれ、遠く故國日本をしのぶ姿が表れてゐる

この温い心のお土産を乗せて練習艦隊は三



品出輸の節

そのまゝ箱詰として輸出し、取引先からいたゞく金は年額ざつと一千百萬圓といふ豪勢ぶり。しかも最近では歐洲に戦亂勃發のためなほますます日本製蜜柑の需要に拍車がかけられてゐるのである。

- 1 蜜柑の山は乙女の手でよりわけされる
- 2 山畑でチョコッキンと摘みとられる黄金の實
- 3 4 信用を落さぬやうにと厳密な品質検査
- 5 次々と詰込みに眼まぐるしい詰詰仕し
- 6 7 輸出蜜柑は總計が年一萬トシ箱詰めが年四萬トシ。ヴァンクワール向、シアトル向の製品が山とつまる
- 8 清水港を船出して今様紀文は外國人の食卓へ

季

右手にはすぐ富士山が、目の下には見ゆるかす太平洋が、廣々と横はる駿河の國、静岡の海邊近い山畑に、初冬の陽さしをうけて黄金色に映える暖國の幸、つづらに實つた蜜柑のとり入れが今せつせと東海の乙女たちの手でつゞけられてゐる。紀元二千六百年の鐘後のお正月の食卓をにぎはし、戦線の勇士の喉に甘露と潤ほふこの蜜柑は、赤戦時下日本の國策お寮所を頼母しく支持してくれる外貨獲得の甘い一戦士でもある。蜜柑の皮をむき、その袋を簡単にとりのぞく方法がわが國で發明されて以來、蜜柑はわが國輸出貿易で重要な地位を占めるやうになり、蜜柑を詰詰とし、又



撮影 内閣情報部



元旦に迎へる



↑ 紀元二千六百年の元旦は支那事變になつてから迎へる三度目のお正月です。家では朝早く起き、お母さんを留守番に一家をまつて白い息をはきながら氏神さまに初詣でをいたしました。

↓ 大晦日に姉さんと一しよにきれいに刷いたおぼろの中から、暇季に行つてゐる兄さんが「おめでたう」と笑つてゐます。お雛さまはまづ兄さんからお母さんはかけ餅を供へました。



↑ 「おめでたうございます」みんな一つづつ年をとり、僕は十三になりました。おとそをみんなで一ぱつづつ祝ひました。綱がゴフとしてきました。それからお雛さまをうんと食べました。

↓ 事變ですから今年の門松はちつぽけです。お日の丸がハタ／＼と朝日に照りはえてゐます。学校の式におとなりのひで子ちゃんと正若がさそひに來ました。両方から思はず「おめでたう」が口に出ました。



↑ 學校で紀元二千六百年のおはなしを校長先生からきいて式をばつて歸つてくると、お父さまが氏神さまの境内で町内の人々と年賀のごあいさつをしてゐらうしてました。今年からは年賀状はきめて、年賀廻りも町内の奉祝會場で買物に一へんですませ、はじめに親を合せる人たちとそこで名刺を取交して年賀のあいさつをすませただとおつしやいました。

↓ 去年から毎月三つひの磯池の見さんと兵隊さんに慰問袋を贈るのが僕の家のうれしい習慣になりました。兵隊さんからいたくいたく手紙の御返事ももうすぶんたまりました。三日の晩、みんなで初詣問袋をつくりました。



↑ 今年はお正月だといつてお客さんも來ませんので、お父さんものんびりしてゐらうしてやいます。お父さんを双六にひつぱりだしてとら／＼負かしてしまひました。

↓ 七日の夜、お父さまがみんなの顔を見ながら「おめでたうございました。何かと思つたら、お正月のくらし方にもけいさい願だ、みんなのお年玉に、大事にしまつておくんだよ、とにこ／＼しながらおつしやつて、大きな貯蓄箱を下さいました。

撮影 宮田 豊



興亞の奉公日

今日二日は



兵隊さん 有難う

佐またかし

「ボクは布製なん
か、買っちゃった」
「お大事に」
「お大事に」
「お大事に」
「お大事に」



石川義夫

妻「私は生活を引
き締めるから
貴方は仕事を
頑張ってください」
夫「ヨシ、二八
分働いて見せ
よう」



形式主義者

森 狂

「なに大丈夫
だよ心配せず
大いに飲んで
飲んで」
「社長今日は
寧ろ今日は寧ろ
寧ろ今日は寧ろ
寧ろ今日は寧ろ
寧ろ今日は寧ろ」

漫画募集

- 明朗な漫画、なるべく國策的な内容をもつもの
- 原稿は墨で描くこと
- 掲載のものには薄謝を呈す
- 送り先
東京市麹町区永田町
内閣総理大臣官舎内
内閣情報部
『寫眞週報』編輯室

「今年こそは」と太郎さん決心しましたが...

志村つね平



「なぜ、お餅を焼かないの?」一年買
かかると、お餅を
買つたら、だか
ら、作つた芋版が
いらなくなつたか
ら...

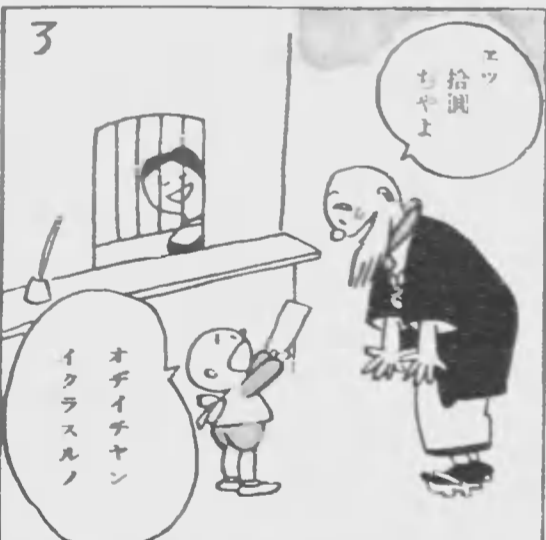
焼芋の辯

小泉紫郎

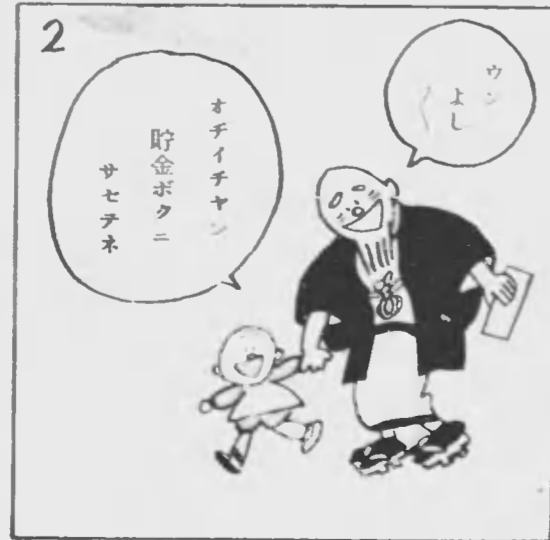


一年の計

横井福次郎



今年こそは 貯蓄報國



西塔子郎



今年こそは 中村寛人



セロファン の兄さん フライオ フィルム

七十年前にセロイドを世の中に贈った人
造繊維化学は、第一次大戦後、各国の自
給自給が奨励されるやうになつてから、な
ほ「一目で美しい装束をとけてみます。あ
透明で美しく光るセロファンは今や全世界に
重宝がられるやうになり、又これと兄弟分の
ス・フも繊維物、絹織物の代用品の時代から
もう日用品の時代にならうとしてゐます
ところが最近又セロファンフィルムといふ
素晴らしい材料がアメリカで發明されまし

た。このフライオフィルムといふのは、セロ
ファンとセロイドの長所とを兼ね備
へ、衛生例で強力な防水性と耐久性とを持
つたものであるといはれてゐます
こゝに紹介するのはフライオフィルムを利
用した雨具や洗濯物の代用品等ですが、その近
代的で使い合のいいところからフライオフ
ィルム製品は今、全アメリカに氾濫しよう
としてゐます



冬の雨の日の外出は外套の上から解いて透
明なフライオフィルムのレインコートをかぶ
つて楽々と

小さい子供の食事の時のエプロンにはもつ
てこい。汁やなんかで汚れてもすぐ拭きとれ
ます



戸のない棚でも食料品の客れ物にフライオ
フィルムのカバーさへかけておけばよく衛生
的です

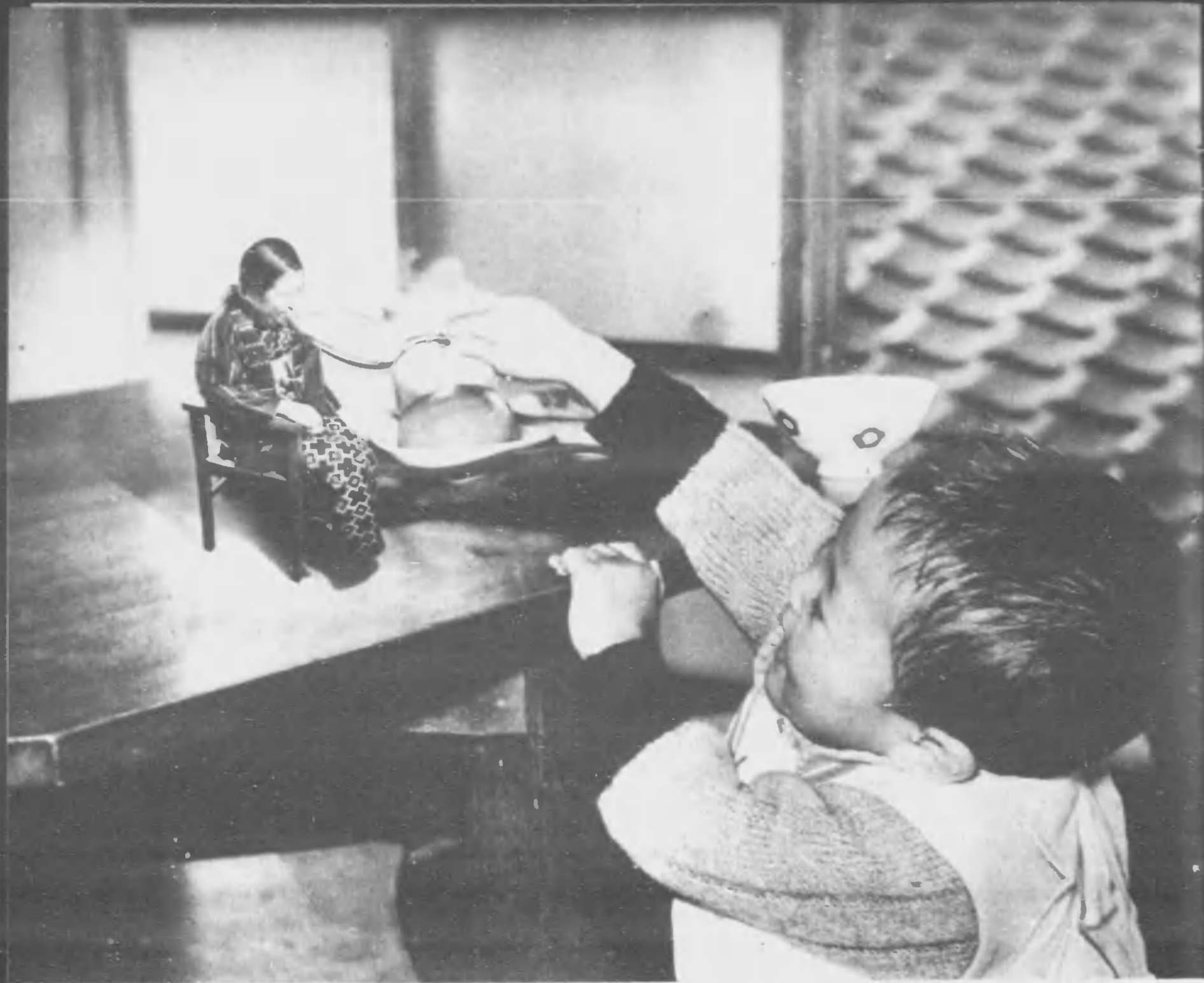
衣袋や帽子箱にも利用出来ます。ゴミ、
ホコリをよけ、透明だからどの箱に何がしま
つてあるかもすぐ判ります



セロファン同様染色や印刷も出来ますから
フライオフィルムで雨傘をつくれれば見直しも
きいなかゝ洒落たものでせう



富真協會



お母ちゃん、駄目で
ちゅよ、ちよんにお
口へマンマくつちゅけ
ちや、坊やもうあけま
ちえんよ

大きいものが
なくなつて
小さいものが
なくなつたら



ワンワンか坊やを連
れて鐘ふらに出た。坊
や、柳の根元なんかへ
オシッコするんぢやな
いよ



ワイ、素晴らしい
トライウ・ウェイだと
思つたら、コリや煙突
ちや、忙しすぎて自転
車天に昇る

撮影 仙波 隆



君、アルミ買ったといふが、馬鹿になら
んぞ、重いもんだね。裏口から出すのに
ひと仕事だよ



興業の準備を進めてから新
東亜建設の大業は着々と進
進み、紀元二千六百年を迎へ
たわが國は對内・對外的にも
亦一段の飛躍を上げるときで
す。このときに當つて「寫眞
週報」の使命も倍加、編輯に
編輯を盛れ、世の動向を指
さしつゝあります。かうした
「寫眞週報」の足跡は内地の
聖家庭には勿論、朝鮮、臺灣、
滿洲及び大陸の戦線にまで成
るべきであらう。

本號からあなたは何を學んだ
てせうか？ (25頁)
1 美々津とは？ (25頁)
2 わが國から海外に輸出される
密柑の送り方には二つありま
すが、それは？ (26頁)
3 セロイアの發明されたのは
今から何年ほど前てせう？ (26頁)
4 新生支那に誕生したわが國の
陸軍士官學校に相當する學校
は何といふのですか？ (16頁)
5 八字橋といふのはどこにあり
ますか？ (7頁)
6 小松とは？ (26頁)
7 蜜柑は外貨獲得の戦士として
年々何億圓くらゐかせいでい
ますか？ (26頁)
8 北鮮鴨綠江岸の警備に當つて
ゐるのは陸軍ですか、海軍で
すか？ (18頁)
9 中支の愛路列車とは前車にい
ふとどんなものですか？ (12頁)
10 支那に羽子板あそびはありま
すか？ (11頁)
一問十點としてあなたは何點
でしたか？

所 込 申	價 定
内閣印刷局發行課	一部 十錢 (送料別)
電話 東京 内 三三三九	外 二〇錢 (送料別)
郵政 東京 一〇〇〇〇	外 二〇錢 (送料別)
全国各地官報販賣所	外 二〇錢 (送料別)
東都書籍株式會社	外 二〇錢 (送料別)
各書店・郵便店	外 二〇錢 (送料別)
各新聞販賣店	外 二〇錢 (送料別)
寫眞材料店	外 二〇錢 (送料別)

寫眞週報 (禁煙)

昭和十五年一月三日印刷發行

内閣情報部
東京印刷局
東京印刷局
東京印刷局

★表紙
紀元二千六百年を迎へ、
わが日本帝國は東亞雄
偉の建設に向つて一段と飛
躍すべきときである
勝つて聖の旗を掲げよ
少年の眼く宛には辰年に因
り飛龍が眼光をみまひら
かす。つと聖の旗をひき
締めるをこそ昭和十五年の
誓ひであらう。

撮影 内閣情報部

読者の
カメラ

紀元二千六百年奉祝の記念事業として帝國
在地軍人會は内地及び滿鮮、臺灣、支那、南洋、
ボンベイ、タイ國の帝國軍地軍人を總動
員して樺原神宮に饗米の奉獻を徒歩行軍の中
途によつて行つてゐます。中繼の選傳地は内
地を五線に、滿鮮を二線に後は外國の線に分
つてゐます。

選傳地第三線(稚内、札幌、青森、秋
田、山形、福島、宇都宮、松本、大垣、瀧田、
奈良)は、氣象的關係から他の線に先立
つて、昨年十一月三日、稚内を出發、積雪の
中を饗米を納めた樽造りの大層糧が地軍の手
で南へ、と奈良のゴールをめざして進
つてゐます。

1 山形入りをした饗米糧は米澤分會から同
縣南陽郡高世村分會に引継がれた(高世村
小學校にて)

2 饗米糧を維持した高世村分會員はカンジ
キをつけて雪路を菓子峠に向ふ

3 山形と福島の間境、菓子峠越えの高世村
分會員、三尺の積雪を踏んでカンジキ部隊は
福島入りをする



戦地へ送る餅つき
長野縣 小山喜太郎
お正月だ、戦地の兵隊さん
に地里のお餅を味はつて貰は
うと長野縣北佐久郡川邊村戦
後奉公會は早晩から村役場で
餅つきをはじめ一石のお餅を戦
線へ送つた



はっ春!

だんらんのお卓に



味と香とり色の調素の晴らし的综合美

茶紅治明

社 會

官廳編纂圖書抄録

- 國家總動員法令集 (加除式) 定價一圓
- 國家總力戰の戦士に告ぐ 定價一圓
- 東亞新秩序の建設と帝國海軍 定價一圓
- 物價統制の大綱 定價一圓
- 物價統制實施要綱 定價一圓
- 輸出入品等に関する臨時措置に関する法律及關係法規集(第十二回加除式) (加除式) 定價一圓
- 重要物資の配給統制 定價一圓
- 救護關係法規 定價一圓
- 兒童保護關係法規 定價一圓
- 會計検査法規抄 (加除式) 定價一圓

内閣官房撰定
昭和十五年
紀元二千六百年

職員手帖

官公吏
軍人
學校職員
の携帯用として特製

大正印刷
裝幀 黒表紙鉛筆附
用紙 薄手上質紙

定價 四十錢

國體の本義

- 國體の本義解説叢書
- 明治以後の勅諭解説
- 我が國體と神道
- 我が國土・國民性と文學
- 我が國體に於ける和
- 帝國憲法と臣民の眞實
- 日本美術

日本諸學振興委員會研究報告

- 第一編 教育學 定價八十五錢
- 第二編 哲學 定價一圓
- 第三編 國語國文學 定價一圓
- 第四編 歴史學 定價九十錢
- 第五編 經濟學 定價六十五錢
- 特別第一編 哲學 定價五十五錢
- 學校體操教授要目 定價十五錢
- 青年學校教授及訓練要目職業科 定價六十五錢

教育叢書

- 第一輯 教學刷新・教學局・自然・地方・春日灣
- 第二輯 學問的方法・佛敎・全體性原理・萬葉學
- 第三輯 實業・識・文明・感應・説・日保
- 第四輯 日本文化・政治・教育・我が國文學
- 第五輯 日本哲學の先蹤・國史より見たる國民性
- 第六輯 偉大なる神話・十七條憲法・大佛敎
- 第七輯 日章旗・日本佛敎の關聯・親鸞上人の最近物理學の問題・日本人の榮譽のために
- 特別第一編 日本文學の樣式・國家存在の哲學的理論・我が國民經濟の特質・徳性としての科學・事變と自然科學 定價九十錢
- 特別第二編 我が國の資源に就いて・自然科學者態度・財政經濟より見たる支那・支那佛敎概説及び道佛二敎の交渉・國家倫理の原理 定價五十五錢

今年も元気で

聖戦下に年を改める事三度、青史も輝く
皇紀二千六百年の新春を迎へて、更に、今
年も元気で！ 複合ヘーフェ菌劑錠わ
かもとで、栄養充實、體力増進の實を舉
げてこそ、銃後の健康線は全しと云ふも
のである。

薬價一日數錢

廿五日量 一圓六十錢



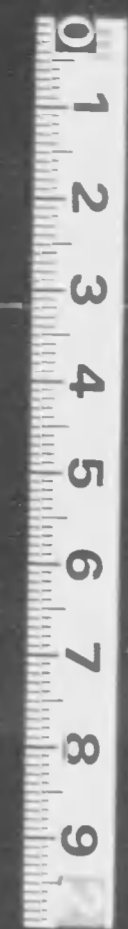
東京小芝公園 わかもと本舗

内閣印刷局印刷發行

胃腸 栄養 わかもと

週寫
報眞

編輯部報情閣内
ンセ十・號八十九第・日十月一





宮内省御貸下



皇太子様には昭和十四年十二月二十三日、おめでたく第六回目の御誕辰日をお迎へになり、ますく御元氣に御健やかにわたくしにせられます
意義深い紀元二千六百年のこの春四月には學習院の初等科に御降學になつて御遊學にいそしませ給ふ御豫定と承ります